

伊能忠敬研究会設立20周年記念講演会 「伊能忠敬と伊豆」

伊能忠敬研究会は、平成8年に設立し20周年を迎えました。
研究会では、設立20周年を記念し、講演会「伊能忠敬と伊豆」を静岡県熱海市の起雲閣で開催することにしました。

日 時：6月4日（土） 午後1時～（12：30受付開始）
場 所：静岡県熱海市
会 場：熱海市起雲閣（熱海市昭和町4-2）
参加費：無料
受付締切：5月20日（金）

講 演：「伊能測量隊の伊豆測量」

講師：渡辺一郎（伊能忠敬研究会名誉代表）

座談会：「伊能忠敬の人と仕事」

コーディネーター：鈴木純子（伊能忠敬研究会代表理事）

パネリスト：

齊藤 栄（熱海市長）

伊能 洋（伊能忠敬家第7代目 画家 伊能忠敬研究会理事）

榎本隆充（伊能測量隊員箱田良助・榎本武揚子孫 東京農業大学客員教授）

木内志郎（千葉商船株名譽会長 伊能忠敬大河ドラマ推進協議会会长）

■連絡先

Eメール mail@ino-ken.org

〒153-0042 東京都目黒区青葉台4-9-6

日本地図センター2F 伊能忠敬研究会

講演会 伊能測量隊の伊豆半島測量について

2016.6.4. 伊能忠敬研究会名誉代表 渡辺一郎

1. 伊能忠敬はなぜ測量を始めたのか

高橋の天文方出仕、忠敬江戸出府、深川浅草で緯度1分を測る、第1次測量へ

2. 第二次測量になぜ伊豆半島が追加されたか

緯度1度の計測値は不評、地図は評価される

(非公式に) もう一度やらないか、忠敬大胆な提案をする、幕閣は唖然とする

局面の転換は、伊豆半島を追加しては?との松平定信の鶴の一声?ではなかつたか

第2次測量で伊能式測量術が確立。忠敬も、幕府も自信を持つ。

3. 第2次測量の結果をみた幕府は東日本測量を決定、資金、待遇の格段の上昇

4. 伊豆半島測量の特徴

根府川関所で悶着 (小田原領だが)

海中引き縄、険阻な海岸の測量

大方位盤の紛失事件

村上島之丞の伊豆の国図を見学

5. 第9次、伊豆七島測量

伊豆七島測量の経路 三日三晩漂流 三浦三崎漂着も含めて

なぜ伊豆七島を命がけで測る必要があったのか

6. 江川太郎左衛門英毅 (英竜の父) は忠敬の曆学の門人、忠敬より伊豆国図を貸与され、写したのではないか。忠敬への依頼状があり、忠敬の承知しましたという返書写しが残っている。

追記

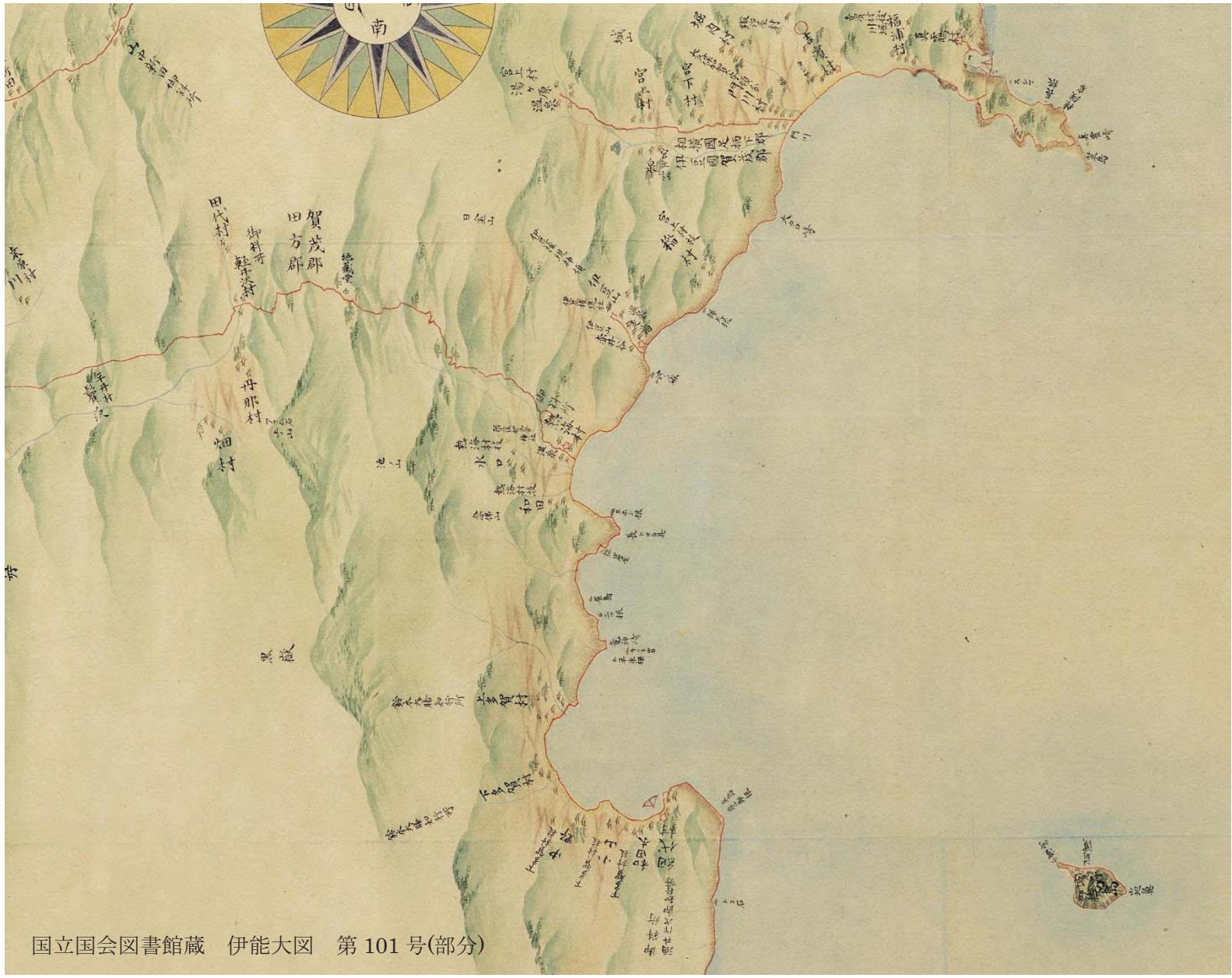
7. 伊能測量は受入れた地元の膨大な作業協力により達成された。没後200年あたり、顕彰したいと思っている。HPを調べて名乗り出てほしい。ご先祖に対し感謝状と記念品を贈る予定。

8. 伊能図と伊能忠敬関係の寸話

英国、フランス、アメリカなどの伊能図発見、忠敬銅像建立などの写真を見ていただきながら時間までお話しします。

第9次伊豆七島測量の経路





国立国会図書館蔵 伊能大図 第101号(部分)

五手小鳥帽子根 右手方計中 燈根 国工万片 宇喜盤鼻 左手正赤左石赤三根 左柳生一斤 左每楊楊連舟一斤 同村宇喜根瀬 热海村 赤手印半里九沿海一里三十五町四间 奉高江葉船子萬工善
岩名立 渡邊考左門
青工百指天 同所帶留側 六時後半三時半印同國同郡同川谷印居處熱海村 字金子根瀬 印增メ左山沿海漫側 物四斤平浦字六幡下瀬 在十方洋上八幡宮社 留川尾 壇巾三万 松和甲人守外故在波山チヨリ生送玉瀬上奉子 樹山口之家 家敷在初守川尾壇巾四间 東川尾 濱四间 宇熱海瀬 人家流 左道母耶町並 印三島街道分止宿側研井上ノ烏此井印同建道沿海千町二十六间 平村人家限根看川街道二方左半ノ宇横礪瀬右舟置場 伊豆山船着落頭 宇松子下瀬 至于沿海赤止四印半里九沿海一千三町五十四间 沿海分物側 二十五町。三间 之前二残之塾海村宇熟海瀬印同御久三島街道及岩瀬 建置 三島街道事ハ 街道種類二町三十三间 且三ノ間起半止 五间 那木陳名三 丈測量 左右木村人公家所事 宇下宿 右人家屋辰在右五間引込空裡室硫黃燒 上右引 四过 大下四道 横道引 此道為當壯多字上宿而上宿前三室半印 建置 三島街道事ハ 街道種類二町三十三间 且三ノ間起半止 五间 那木陳名三 丈測量 左右木村人公家所事 宇下宿 右人家屋辰在右五間引込空裡室硫黃燒 上右引 四过 大下四道 横道引 此道為當壯多字上宿而上宿前三室半印 同右百指天 印同所計中 燈根 国工万片 宇喜盤鼻 街道測量 左湯本 湯本熱湯 但直表表四尺 右湯神社 壺神少名考名 右三法花第通龜山大乘寺 五方引込右水車 右地藏堂 大法堂下道家 翁神阿佐和宋命神社合殿大己貴年祭礼六月廿日 神主青木日向
三弓汗山手七面社 当村鎮守采官一鳥石前五御主家 坐手所事車上坐 坐手所事車上坐 坐手所事車上坐